



わかりやすい

前橋の財政

令和8年度版

はじめに

市では、市民や事業者の皆さまに納めていただいた税金や、国・県から交付されるお金などを活用し、福祉、教育、道路、公園、ごみ処理など、暮らしに関わるさまざまな行政サービスを行っています。

この資料では、こうした行政サービスを行うために、どのようなお金が入り、何に使われているのか、また、市の貯金や借金がどのくらいあるのかなど、前橋市の財政の仕組みと状況を、グラフや家計への置き換えを交えながら紹介します。

この資料を通して、前橋市の財政について一緒に見てみましょう。

※この資料では、予算については令和8年度当初予算、決算や財政指標については主に令和7年度決算の数値を使用しています。



目 次

1	財政ってなに？	1
2	前橋市の予算と会計	2
3	市の歳入を見てみよう	4
3-2	前橋市の市税	5
4	市の歳出を見てみよう（目的別）	7
4-2	市の歳出を見てみよう（性質別）	8
5	市の貯金（基金）を見てみよう	9
6	市の借金（市債）を見てみよう	11
7	市の財政を家計簿にすると？	13
8	前橋市の財政は健全なの？	14
9	今後の財政の見通しと取組	16
10	主な財政用語	18

1. 財政ってなに？

財政とは、簡単に言えば「**お金のやりくり**」のことです。

家庭では、給料などの収入をもとに、食費、光熱費、家賃、教育費、貯金などにどのくらい使うかを考えながら生活しています。

市でも同じように、皆さまに納めていただいた税金や国・県からのお金などをもとに、福祉、教育、道路、公園、ごみ処理など、暮らしに必要なサービスを行っています。

市のお金にも限りがあるため、どのような行政サービスに、どれくらいのお金を使うかを考え、収入と支出を計画的に管理することを「**財政**」といいます。



予算

予算とは、お金のやりくりの「計画」のことです。

市では、市税などの入ってくるお金を見込み、福祉、教育、道路、公園、ごみ処理などの行政サービスにいくら使うかを決めます。

これから1年間のお金の使い道を決めたこの計画のことを「**予算**」といいます。

補正予算

補正予算とは、年度の途中で、最初に決めた計画を見直すための予算です。

年度のはじめに予算を決めても、災害への対応、国の制度変更、新たに必要となった事業などにより、途中でお金の使い道を変更することがあります。

このように、状況の変化に合わせて、必要なお金を追加したり、使い道を組み替えたりするための予算を「**補正予算**」といいます。

決算

決算とは、1年間で実際にどれだけのお金が入り、どのように使われたのかをまとめた結果です。

予算が「計画」だとすると、決算は「実績」です。

年度が終わった後に、予算に基づいて事業が行われたか、どれだけの収入があり、どの分野にいくら使われたのかを確認することを「**決算**」といいます。

2. 前橋市の予算と会計

前橋市の予算は、使い道や事業の内容に応じて、いくつかの会計に分けて管理されています。

「**会計**」とは、簡単にいえばお財布のことです。家庭で、生活費、教育費、住宅ローン、貯金など、使うお金を目的ごとに分けて考えるように、市でも、福祉や教育、道路整備などに使うお金、国民健康保険や介護保険など特定の事業に使うお金を分けて管理しています。

ここでは、令和8年度の実際の予算額とあわせて、会計の種類を紹介します。



一般会計

福祉、教育、道路、公園、防災、ごみ処理など、市民生活に身近な行政サービスを行うための会計です。

特別会計

国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、競輪など、特定の事業について、一般会計とは分けてお金の出入りを管理する会計です。事業ごとの収入や支出を分かりやすくするために設けられています。

公営企業会計

水道や下水道など、料金収入をもとにサービスを提供する事業について、民間企業に近い考え方で経理を行う会計です。サービスの提供にかかる費用と、利用者からの料金収入とのバランスを見ながら運営しています。

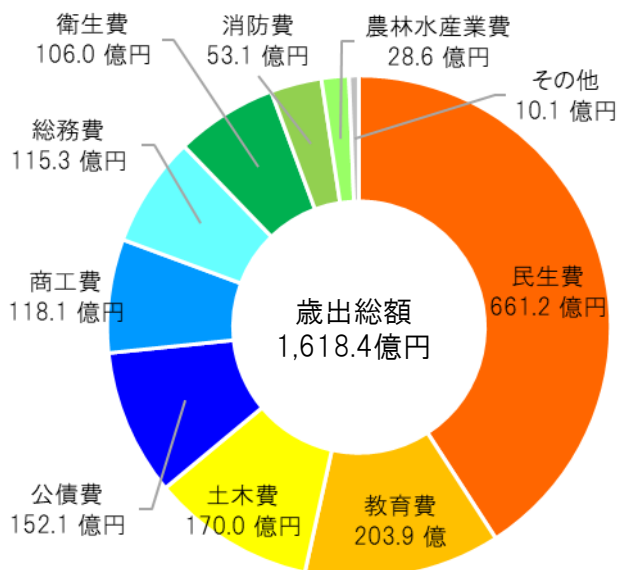
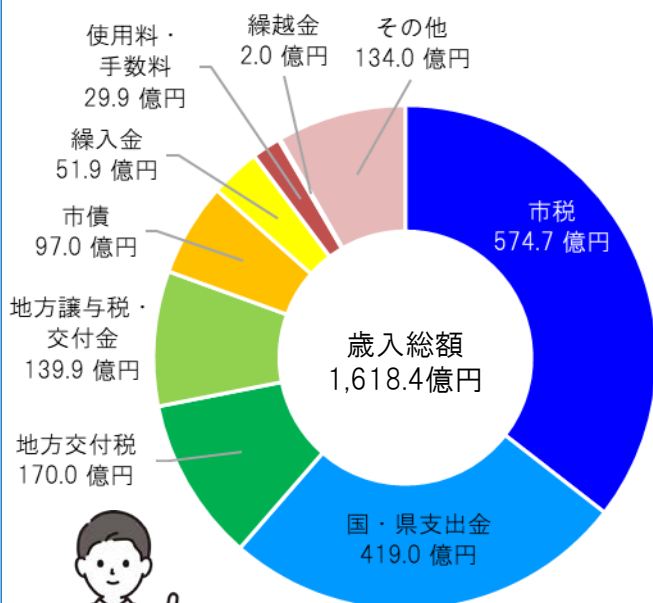


○会計区分と各会計の令和8年度当初予算

会計区分		予算額
一般会計		1, 6 1 8億4, 1 6 8万円
特別会計	国民健康保険	3 2 1億7, 9 2 0万円
	後期高齢者医療	6 7億3, 3 5 0万円
	競輪	4 4 9億2, 7 1 2万円
	介護保険	3 7 1億6, 9 0 3万円
	母子父子寡婦福祉資金貸付金	5, 3 3 4万円
	新エネルギー発電事業	1億3, 1 4 0万円
	用地先行取得事業	1, 0 1 0万円
	産業立地推進事業	1 5億1, 1 7 7万円
企業会計	水道事業	1 2 9億7, 4 4 3万円
	下水道事業	1 3 7億2, 9 4 0万円
	農業集落排水事業	2 1億8, 0 4 8万円

※ 1万円未満の額については四捨五入しています。

○一般会計予算の内訳



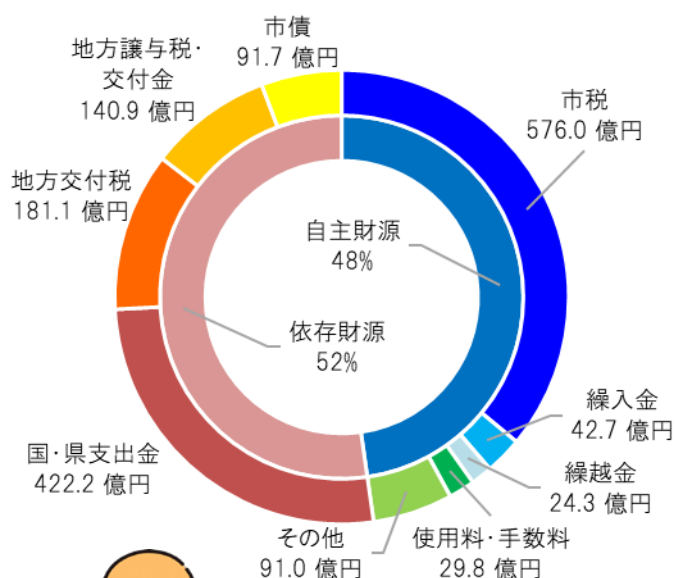
3. 市の歳入を見てみよう

市には、皆様に納めていただく税金のほか、国や県からのお金、施設の使用料、市債など、さまざまな種類の収入があります。この市の収入のことを「**歳入**」といいます。

ここでは令和7年度の一般会計の決算を例に、どんな種類の収入がどれくらい集まったのかを紹介します。

令和7年度 歳入決算額

約1,599億7,103万円



自主財源 763.8億円（48%）

＜市税＞ 576.0億円

市民や事業者の皆様に納めていただいた税金

＜緑入金＞ 42.7億円

基金（貯金）から取り崩したお金など

＜緑越金＞ 24.3億円

前年度の黒字分から繰り越されたお金

＜使用料・手数料＞ 29.8億円

施設の使用料や行政サービスの手数料など

＜その他＞ 91.0億円

寄附金や財産を売ったり貸したりしたお金など

依存財源 835.9億円（52%）

＜国・県支出金、交付金等＞ 744.2億円

地方交付税など、国や県から交付されたお金

＜市債＞ 91.7億円

施設の整備などのために国や銀行等から借りたお金



自主財源と依存財源

市の歳入は、「自主財源」と「依存財源」の大きく2つに分けられます。

市税や使用料など、市が自ら確保できるお金を「**自主財源**」といいます。自主財源が多いほど、市が使い道を考えやすく、地域の状況に応じた柔軟な財政運営がしやすくなります。

一方、国や県から交付されるお金や市債などを「**依存財源**」といいます。これらも市の事業を進めるうえで欠かせない大切な収入ですが、国や県の制度に基づくものや、使い道が決められているものが多く、市が自由に使える範囲は自主財源に比べて限られます。

3-2. 前橋市の市税

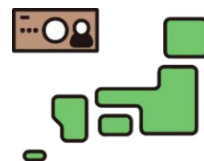
市税とは、前橋市に入ってくる税金のことで、市民や事業者の皆さまに納めていただく、市の大切な収入です。

前橋市の市税には、個人市民税、法人市民税、固定資産税、軽自動車税などがあります。これらの税金は、福祉、教育、道路、公園、防災、ごみ処理など、私たちの暮らしに必要なさまざまな行政サービスに使われています。

また、市税は、種類によって「**普通税**」と「**目的税**」に分けられます。

普通税は、使い道があらかじめ決められておらず、福祉や教育など市民生活に関わる幅広い行政サービスに使われます。

一方、目的税は、道路や公園の整備などのまちづくりや、観光の振興など、あらかじめ決められた目的のために使われる税金です。



○市税の種類

税目	説明	区分
個人市民税	市内に住んでいる人などに納めていただく税金です。	普通税
法人市民税	市内に事務所や事業所などがある会社などに納めていただく税金です。	
固定資産税	市内に土地や家屋、償却資産を持っている人に納めていただく税金です。	
軽自動車税	軽自動車や二輪車などを所有している人に納めていただく税金です。	
市たばこ税	たばこの購入を通じて負担する税金です。	
入湯税	温泉施設を利用した人に納めていただく税金です。観光の振興や消防施設、ごみ処理施設などの整備に使われます。	目的税
事業所税	一定規模以上の事務所、店舗、工場などを持つ事業者になんていただく税金です。道路や上下水道、学校の整備、防災などの幅広い分野で使われます。	
都市計画税	市街化区域などに土地や家屋を持っている人に納めていただく税金です。道路、公園、上下水道の整備や土地区画整理など、まちづくりのために使われます。	



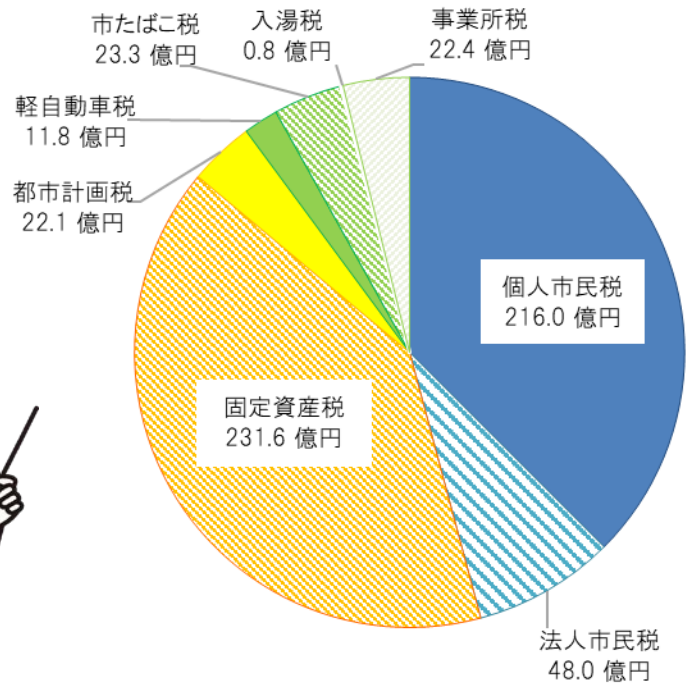
市税の収入額

前橋市の歳入のうち、市税は約4割を占めており、市の主要な収入源となっています。

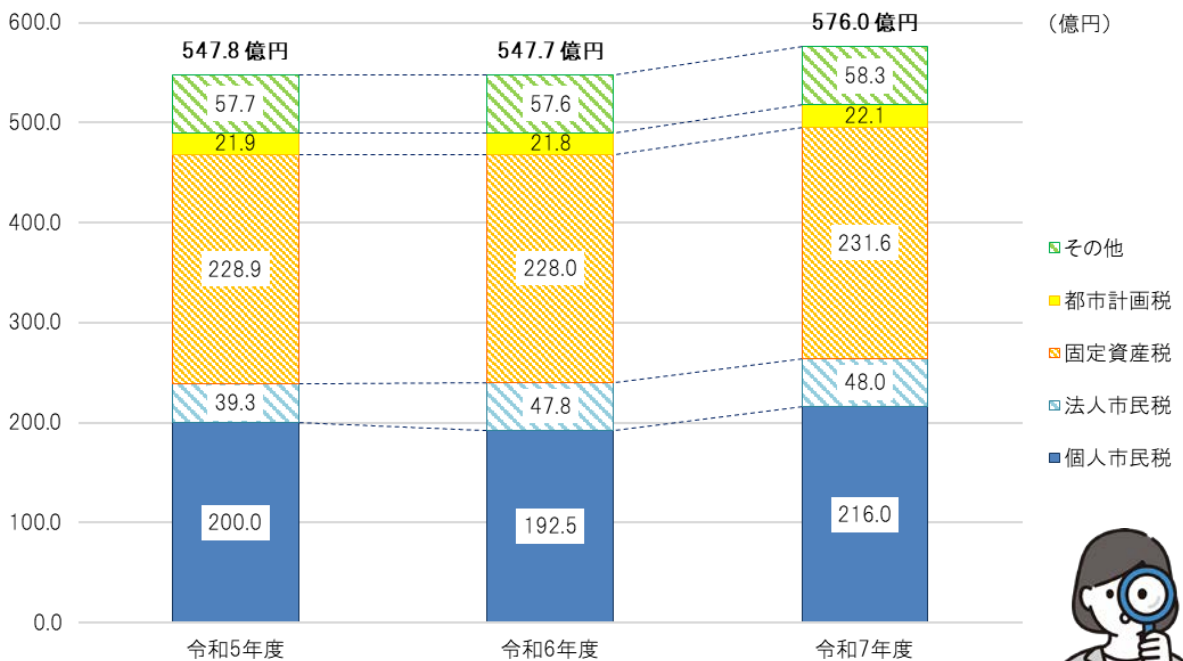
令和7年度の市税収入額は約576億円でした。市税のうち、個人市民税と固定資産税の割合が特に大きく、この2つで市税収入全体の約8割を占めています。

令和7年度 市税収入額

約575億9,505万円



市税収入額の推移



4. 市の歳出を見てみよう（目的別）

市では、福祉、教育、道路、公園、ごみ処理など、市民生活に必要なさまざまなサービスを行うためにお金を使っています。この市が使うお金のことを「歳出」といいます。

ここでは令和7年度の一般会計の決算を例に、どのような分野にどれくらいのお金が使われたのかを紹介します。

令和7年度 歳出決算額

約1,531億8,033万円



総務費

市役所の運営、戸籍、選挙、情報システムなどに使うお金です。

152.4億円
(9.9%)



民生費

子育てや高齢者福祉、生活保護など、市民の生活を支えるためのお金です。

659.5億円
(43.1%)



衛生費

健康づくり、予防接種、ごみ処理、環境対策などに使うお金です。

98.9億円
(6.5%)



農林水産業費

農業や林業の振興、生産環境の整備などに使うお金です。

26.0億円
(1.7%)



商工費

商業や工業、観光の振興、企業への支援などに使うお金です。

63.2億円
(4.1%)



土木費

道路、橋りょう、公園、市営住宅などの整備や管理に使うお金です。

149.1億円
(9.7%)



消防費

消防、救急、防災など、市民の安全を守るために使うお金です。

59.8億円
(3.9%)



教育費

学校教育、図書館、文化、スポーツなどに使うお金です。

163.8億円
(10.7%)



公債費

過去に借り入れた市債を返済するためのお金です。

151.1億円
(9.9%)



その他

議会運営（議会費）、雇用などの支援（労働費）、災害対応（災害復旧費）のお金です。

8.0億円
(0.5%)



4-2. 市の歳出を見てみよう（性質別）

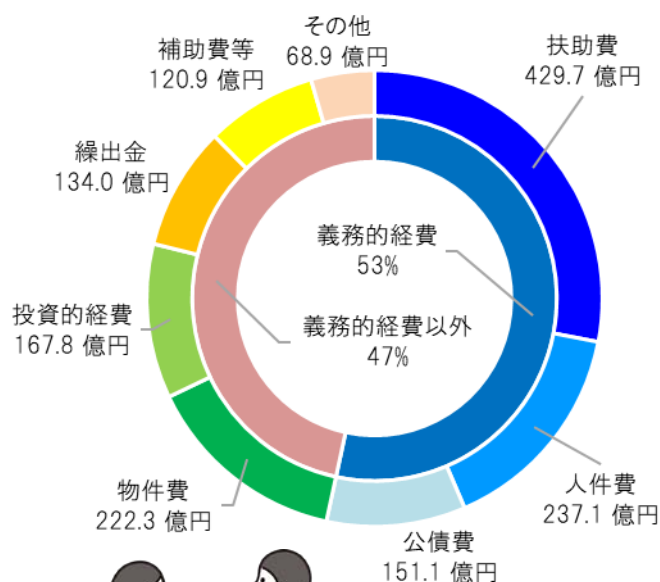
前のページでは、福祉、教育、道路・公園の整備など、「何のために使ったか」によって分けた「目的別」の歳出を紹介しました。

一方、このページでは、人件費や扶助費、物件費など、「どのような性格の経費か」によって分けた「性質別」の歳出を紹介します。

性質別歳出を見ることで、市のお金がどのような性格の経費に、どれくらい使われたのかが分かります。

令和7年度 歳出決算額

約1,531億8,033万円



義務的経費 817.9億円（53%）

<扶助費> 429.7億円

福祉や子育てなどの給付や支援に使うお金

<人件費> 237.1億円

市の職員や議員の給与など

<公債費> 151.1億円

過去に借り入れた市債を返済するためのお金

義務的経費以外 713.9億円（47%）

<物件費> 222.3億円

物品の購入や光熱費、業務委託料などのお金

<投資的経費> 167.8億円

道路や施設の建設、大規模な改修などの整備費

<繰出金> 134.0億円

一般会計から特別会計などへ支出するお金

<補助費等> 120.9億円

市民団体や事業者などへの補助金や負担金

<その他> 68.9億円

維持補修費、基金への積立て、貸付金など



義務的経費と財政運営の柔軟性

歳出は、「義務的経費」とそれ以外の経費の大きく2つに分けて見ることができます。

義務的経費とは、法律や制度などに基づいて継続的に支出する必要があり、市の判断だけで減らすことが難しい経費です。「人件費」「扶助費」「公債費」がこれに含まれます。

一方、**義務的経費以外の経費**には、「物件費」「投資的経費」「補助費等」などがあります。これらも行政サービスを行うために必要な経費ですが、事業の内容や実施する時期を検討することにより、義務的経費に比べて見直しや調整がしやすいものもあります。

義務的経費の割合が高くなると、新しい事業や社会の変化への対応に使えるお金が限られ、柔軟な財政運営が難しくなります。

5. 市の貯金（基金）を見てみよう

家庭では、急な出費や将来必要となる支出に備えて、収入の一部を貯金することがあります。市でも同じように、災害などの思いがけない支出や、将来の施設整備などに備えて、お金を積み立てています。この積み立てたお金を「**基金**」といいます。

ここでは、前橋市の基金の種類や残高の推移などを紹介します。



○基金の種類

前橋市には、令和7年度末時点で**20**の基金（特別会計基金や定額運用基金を含む）があります。基金にはそれぞれ目的があり、**必要に応じて取り崩して事業の財源に充てるものや、一定額の資金を運用するもの**があります。

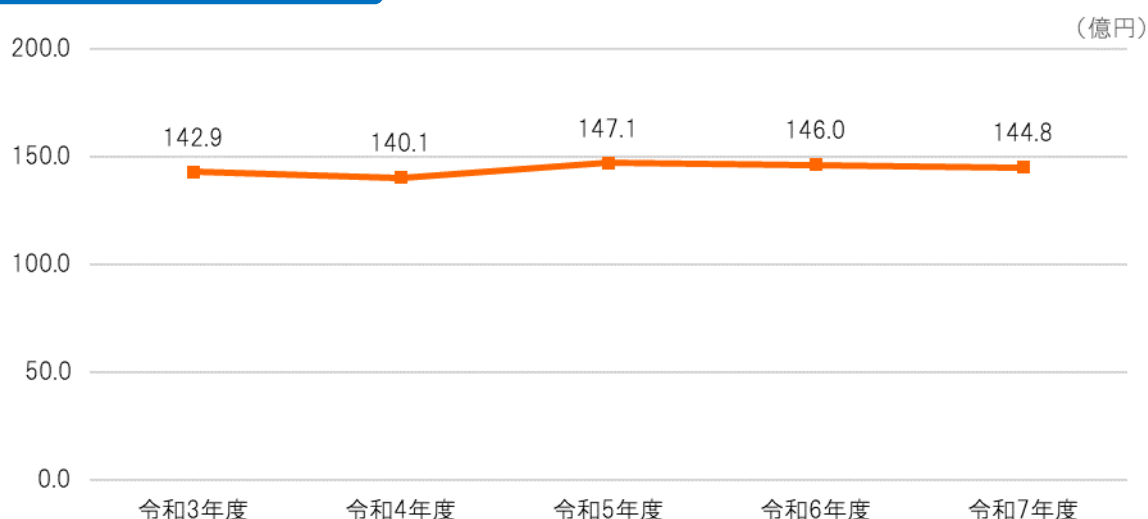
必要な行政サービスを安定して続けるためには、将来の収入や支出を見通しながら、基金を計画的に積み立て、それぞれの目的に応じて必要な事業に活用したり、資金として適切に運用したりすることが大切です。



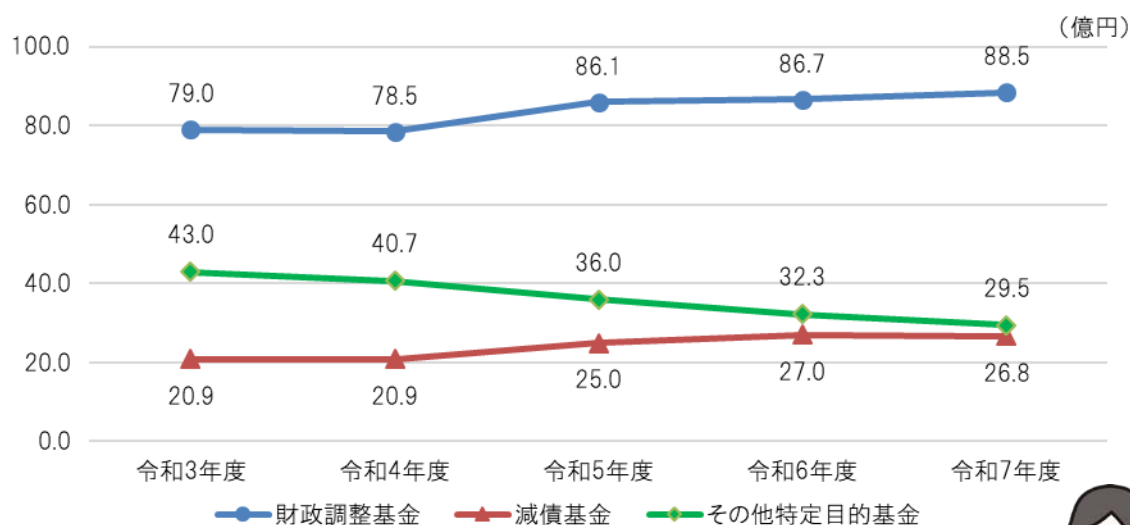
区分	説明
財政調整基金	税金が減ったときや、災害などで急にお金が必要になったときに備える基金です。 年度による収入と支出の差を調整する役割があり、家庭でいう「いざというときの貯金」にあたります。
減債基金	市債という市の借入金を、計画的に返済するために積み立てている基金です。 家庭でいう「ローン返済のための貯金」にあたります。
その他 特定目的基金	公共施設の整備など、あらかじめ決められた目的のために積み立てている基金です。 原則として、それぞれの基金で決められた目的に沿って活用します。 公共施設等整備基金、ふるさと前橋応援基金、教育振興基金、 社会福祉基金、職員退職手当基金など

○基金残高の推移

基金残高（一般会計）の推移



基金別残高の推移



基金の役割と計画的な活用

基金は、市民や事業者の皆さまに納めていただいた税金などをもとに積み立てた、市民生活を支える大切な財源です。

そのため、ただ貯めることだけを目的とするのではなく、将来や急な支出への備えを確保しながら、市民生活に必要な行政サービスや公共施設の整備など、現在必要な事業にも適切に活用していくことが大切です。

基金の役割や今後の財政状況を考え、積立てと取崩しのバランスを取りながら、計画的に管理していく必要があります。



6. 市の借金（市債）を見てみよう

家庭では、住宅などの高額なものを購入するときに、住宅ローンを利用して長い期間をかけて返済することがあります。市でも同じように、道路や学校、公共施設などを整備するときに、お金を借りることがあります。この市の借入金を「市債（地方債）」といいます。

ここでは、前橋市の市債残高、これまでの推移などを紹介します。



なぜ市は借金をするの？

道路や学校などの公共施設は、現在の市民だけでなく、将来の市民も長い期間にわたって利用します。整備費用をその年度の収入だけで支払うと、その年度の市民に負担が集中してしまいます。

そこで、市債を活用して長期間にわたって返済することで、施設を利用する現在と将来の市民で費用を分けて負担することができます。また、その年度の収入だけでは難しい大規模な事業を、必要な時期に行うこともできます。

ただし、市債は将来返済する必要があるため、将来の負担が大きくなりすぎないように、借入れと返済のバランスを考えて計画的に活用することが大切です。

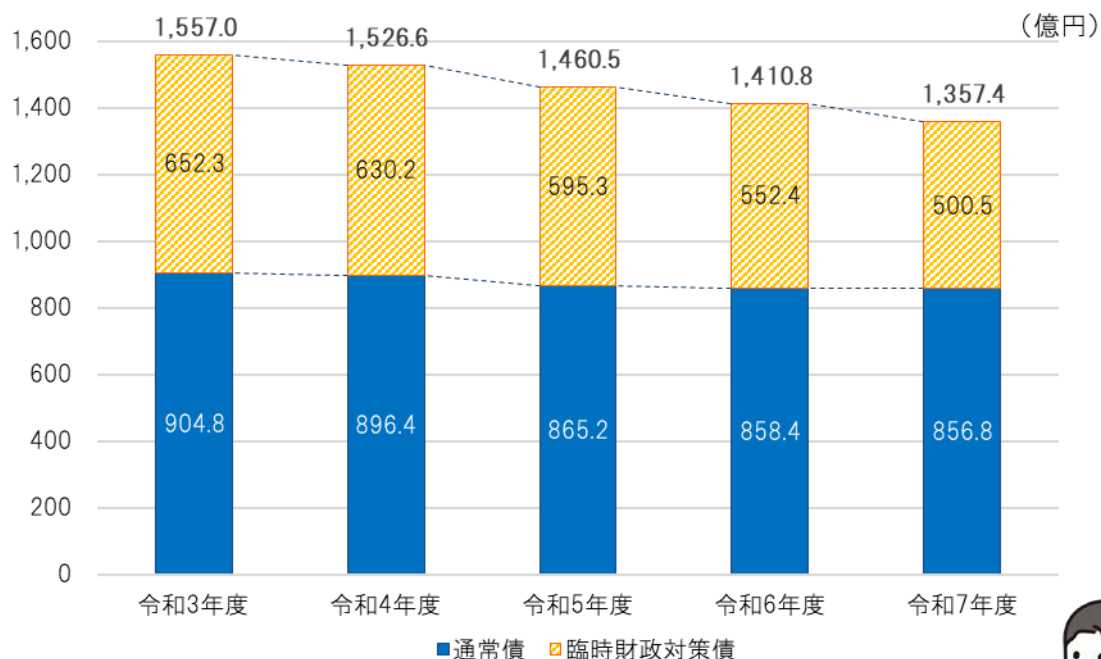
市債を使わない場合（その年度に全額を支払う）



市債を使う場合（長い期間に分けて返済する）



○市債残高の推移



臨時財政対策債とは？

臨時財政対策債は、国から市に交付される地方交付税の財源が不足したときに、その不足分を補うため、市が借り入れるお金です。いわば、**地方交付税の代わりとなる特別な市債**です。

借りたお金は市が返済しますが、返済する元金と利子の全額が、将来の地方交付税を計算する際に反映される仕組みとなっています。そのため、市債の残高を見るときは、市債全体の金額だけでなく、地方交付税の代わりとなる「臨時財政対策債」と、道路や学校などの整備に使う「通常債」とを分けて見るのが大切です。



市債の返済は、すべて市の負担なの？

上記のとおり、臨時財政対策債は、返済する元金と利子の全額が、後年度の地方交付税の算定に反映される仕組みとなっています。

一方、通常債についても、その種類によっては、返済額の一部が地方交付税の算定に反映され、市の実質的な負担が軽減されるものがあります。このような仕組みを「**交付税措置**」といいます。



7. 市の財政を家計簿にすると？

市の財政は金額が大きく、そのままではイメージしにくいいため、令和7年度一般会計決算の歳入総額を、家庭の「年収500万円」に置き換えて家計簿を作成しました。

市税を「給料」、市債を「ローンの借入れ」などに例えることで、市のお金の流れを身近な家計として見てみましょう。

収入のページ		支出のページ	
年間収入 500万円		年間支出 479万円	
✓ 給料（基本給） 市税	180万円（36.0%）	□ 食費 （人件費）	74万円（15.5%）
✓ 諸手当 地方交付税やその他交付金など	101万円（20.1%）	□ 医療費・保険料 （扶助費）	134万円（28.0%）
✓ パート収入 使用料・手数料、諸収入など	39万円（7.8%）	□ ローン返済 （公債費）	47万円（9.9%）
✓ 親からの仕送り 国や県からの支出金	132万円（26.4%）	□ 光熱費・日用品 （物件費）	70万円（9.9%）
✓ ローン借入れ 市債として借入れたお金	29万円（5.8%）	□ 自宅修繕・車購入 （投資的経費・維持補修費）	55万円（11.6%）
✓ 預金引き出し 基金（貯金）から取り崩したお金	12万円（2.4%）	□ クラブ活動費 （補助費等）	38万円（7.9%）
✓ 昨年度からの繰越金 前年度決算における剰余金	7万円（1.5%）	□ 子どもへの仕送り （繰出金）	42万円（8.7%）
貯金残高 （基金残高） 年収500万円に対し 45万円		□ 貯金 （積立金等）	19万円（3.9%）
ローン残高 （市債残高） 年収500万円に対し 424万円		収支額（収入－支出） 21万円	
（令和7年度末残高）		使い道 カード引き落とし 予定額 （繰越明許・事故繰越） 3万円	
－収入－		貯金 （基金への積立） 11万円	
		財布に残すお金 （翌年度予算への繰越金） 7万円	
		－支出－	

※実際の市の財政と家庭の家計では仕組みが異なるため、金額や項目はあくまでイメージです。



家計簿のポイント

① 市にはさまざまな収入があります

家庭の給料に当たる市税だけでは、市のすべての支出を賄うことはできません。地方交付税や国・県からの支出金、市債など、さまざまな収入を組み合わせ行政サービスを行っています。

② 支出の半分以上が義務的経費です

人件費、扶助費、公債費からなる義務的経費は、支出全体の半分以上を占めています。これらは毎年継続して支払う必要があり、市の判断だけでは短期間に減らすことが難しい経費です。

③ 残ったお金にも決まった使い道があります

収入から支出を差し引いて残ったお金が、すべて自由に使えるわけではありません。翌年度に繰り越す事業に必要なお金や、基金への積立などに充てられます。

8. 前橋市の財政は健全なの？

市の財政が健全かどうかは、貯金や借金の金額だけで判断することはできません。赤字が生じていないか、借金の返済が大きな負担になっていないか、将来にどのくらいの負担が見込まれるか、自由に使えるお金にどの程度の余裕があるかなど、さまざまな視点から見るのが大切です。

ここでは、令和7年度決算に基づく主な財政指標を使って、前橋市の財政状況を紹介します。

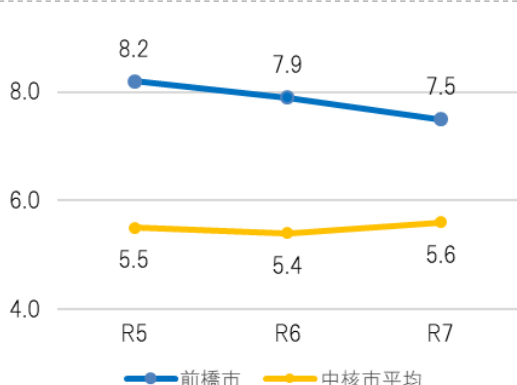


実質公債費比率

借金の返済負担を見る指標

毎年継続して入る標準的な収入の規模に対して、市債の返済などがどのくらいの負担になっているかを示す指標です。数値が低いほど、返済負担が小さいことを表します。

令和7年度：7.5%（早期健全化基準：25%）



返済額の割合が大きい

家計のイメージ

実質公債費
比率

=

年間の
ローン返済額



年収

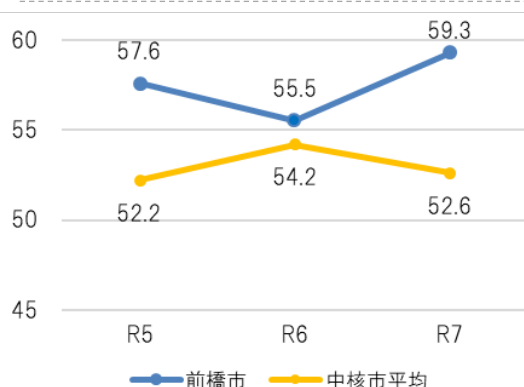


将来負担比率

将来支払う負担を見る指標

毎年継続して入る標準的な収入の規模に対して、市債残高や将来支払うことが見込まれる費用がどの程度あるかを示す指標です。数値が低いほど、将来の財政負担が小さいことを表します。

令和7年度：59.3%（早期健全化基準：350%）



返済予定額の割合が大きい

家計のイメージ

将来負担
比率

=

将来支払う
ローン返済予定額



年収

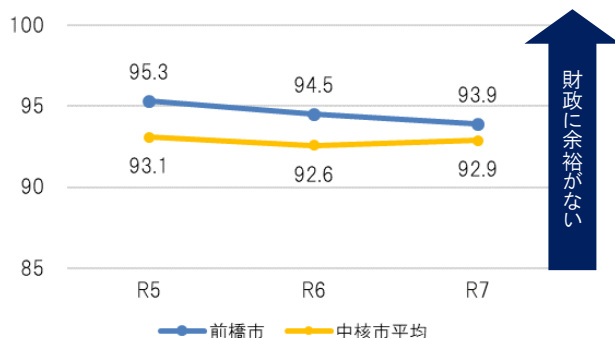


経常収支比率

財政の余裕を見る指標

市税など、毎年継続して入る収入が、人件費など、毎年継続して必要となる経費にどのくらい使われているかを示す指標です。数値が高いほど、毎年必要な経費に多くの財源が使われており、新しい事業や社会の変化への対応に使えるお金の余裕が少ないことを表します。

令和7年度：93.9%



家計のイメージ

生活の中で
必ずかかる費用



経常収支
比率

=

給料など

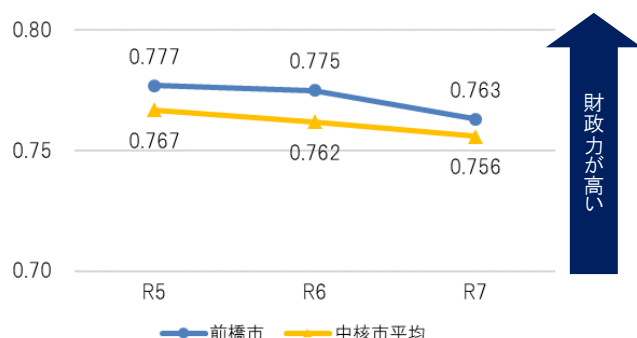


財政力指数

自ら財源を確保する力を見る指標

行政サービスを行うために必要な費用に対して、市税など、市が自ら確保できる収入がどのくらいあるかを示す指標です。数値が「1」に近い、または「1」を超えるほど、行政サービスに必要な財源を、市税などで自ら確保する力が強いことを表します。

令和7年度：0.763



家計のイメージ

給料など
(自分で確保できる収入)



財政力
指数

=

標準的な生活に
必要な費用



各種指標から見た前橋市の財政状況は？

実質公債費比率と将来負担比率を見ると、国が定める早期健全化基準を下回っており、市債の返済や将来の負担が、直ちに財政運営を大きく圧迫する状況ではありません。

一方で、経常収支比率と財政力指数を見ると、毎年入る収入の多くが、人件費、福祉、市債の返済など、継続して必要となる経費に使われており、市税など市が自ら確保する収入だけでは、行政サービスに必要な財源のすべてを賄うことは難しい状況です。

このため、現在の財政状況は一定の健全性を保っているものの、自由に使えるお金が十分にあるわけではありません。今後も、収入と支出のバランス、市債の返済、基金の残高などに注意しながら、計画的に財政を運営することが大切です。

9. 今後の財政の見通しと取組

前のページでは、令和7年度決算に基づく主な財政指標から、前橋市の財政が現時点では一定の健全性を保っていることを確認しました。

一方、このページでは、将来の収入や支出などを試算した「中期財政収支見通し」をもとに、今後の財政にどのような変化が見込まれるのかを見ていきます。

※このページでは、令和8年5月に公表した中期財政収支見通しをもとに紹介します。



中期財政収支見通しとは？

今後予定されている事業や、税収、社会保障関係経費などの見込みをもとに、将来の収入と支出を推計し、基金や市債の残高がどのように変化するかを試算したものです。将来にわたって行政サービスを安定して続けられるよう、今後の財政運営を考えるために活用します。

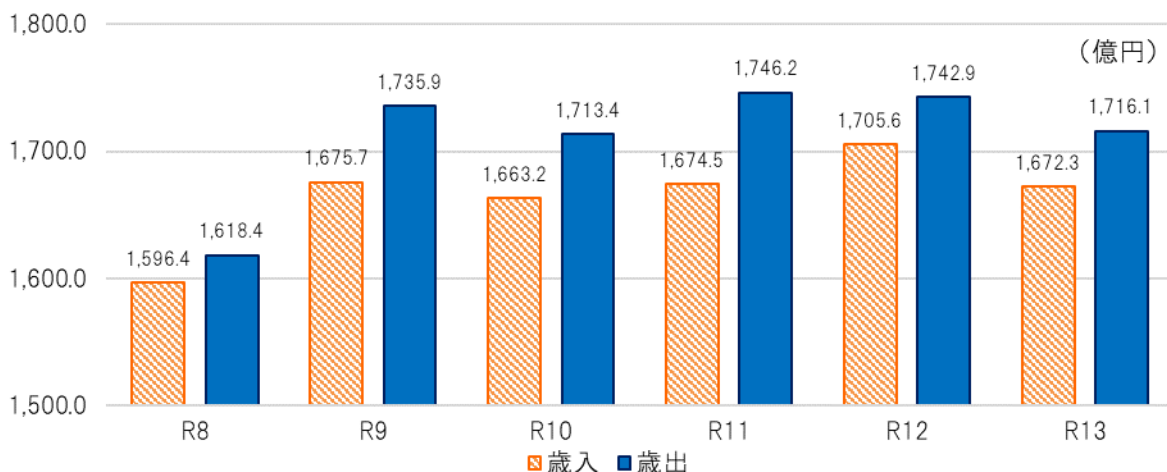
○今後の財政の見通し

前橋市では、今後、少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加に加え、千代田町中心拠点地区市街地再開発事業や群馬総社駅西口開設など、多額の費用を必要とする事業が予定されています。さらに、令和11年度には湯けむり国スポ・全スポぐんまの開催も予定されており、令和9年度以降、支出が大きく増加することが見込まれています。

中期財政収支見通しでは、今後、支出が収入を上回り、財源不足が続く見込みです。この不足を補うために財政調整基金を取り崩すことで、基金残高は減少します。また、大型事業などの財源として市債を活用する予定であり、通常債の残高は増加する見込みです。



一般会計の収支見通し

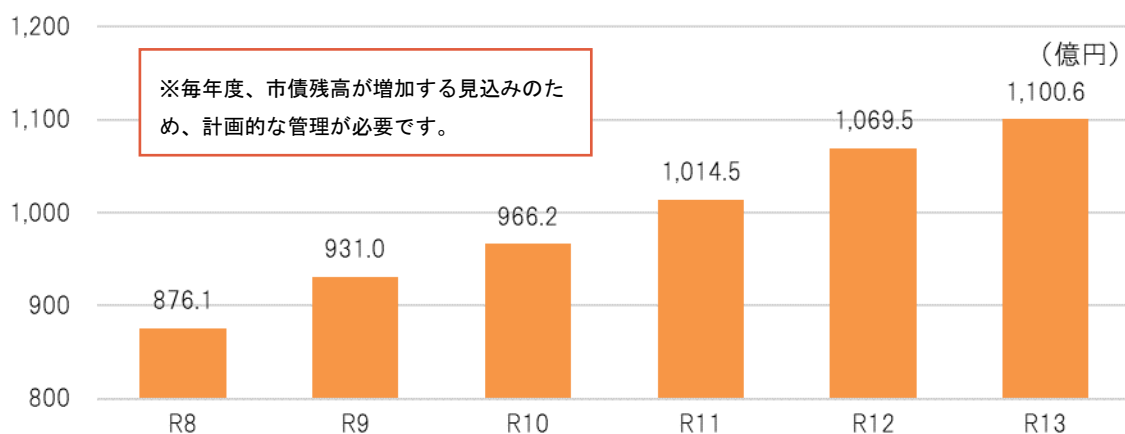


※令和8年度の歳入歳出差引の不足分（22億円）には、財政調整基金を充てています。

財政調整基金残高の推移



市債（通常債）残高の推移



○将来を見据えた財政運営に取り組めます

まちづくりや公共施設の改修などに必要な費用の増加が見込まれる中で、将来にわたって行政サービスを安定して続けるため、事業の緊急性や優先順位を確認し、限られた財源を効果的に活用していきます。

あわせて、歳入の確保、既存事業の見直し、公共施設の適切な管理などに取り組めます。また、大規模な災害など、予期しない支出にも速やかに対応できるよう、財政調整基金は50億円程度の残高を確保することを目安に管理するとともに、市債についても将来の返済負担を考慮しながら、計画的に活用していきます。

市民の皆さまが安心して暮らせるよう、将来に必要な取組とのバランスを図りながら、健全で持続可能な財政運営に努めます。



※中期財政収支見通しは、作成時点で想定される収入や事業費などをもとにした試算です。今後の社会経済情勢の変化を踏まえつつ、予算編成などで事業の見直しや事業スケジュールの調整などを行うことで、収支の改善を図ります。

10. 主な財政用語

用語	説明
一般会計	福祉、教育、道路、防災、ごみ処理など、市民生活に身近な基本的な行政サービスを行うための会計です。
特別会計	国民健康保険や介護保険など、特定の事業について、一般会計とは分けて収入と支出を管理する会計です。
公営企業会計	水道や下水道など、利用者からの料金収入をもとにサービスを提供し、民間企業に近い方法で経理を行う会計です。
自主財源	市税や施設の使用料、住民票などの発行手数料のように、市が自ら確保する収入です。自主財源が多いほど、地域の状況に応じた財政運営がしやすくなります。
依存財源	地方交付税、国・県支出金、市債など、国や県の制度などに基づいて市に入る収入です。
一般財源	市税や地方交付税など、使い道が特定されておらず、市が必要な事業に使うことができる収入です。
特定財源	国・県支出金など、使う目的があらかじめ決められている収入です。原則として、指定された事業に活用します。
地方交付税	全国の自治体が一定の行政サービスを行えるよう、それぞれの財源の状況に応じて国から交付されるお金です。使い道は特定されていません。
国・県支出金	福祉や道路整備など、国や県が必要と認めた事業に対して、市に交付されるお金です。多くは使う目的が決められています。
義務的経費	人件費、扶助費、公債費のことです。毎年継続して支払う必要があり、市の判断だけでは短期間に減らすことが難しい経費です。

用語	説明
投資的経費	道路、学校、公共施設などの整備や、災害で被害を受けた施設の復旧に使う費用です。整備した施設が将来に残ることから、投資的経費と呼ばれます。
基金	災害などの急な支出や将来の事業に備えて、市が積み立てているお金です。家庭の貯金に当たりますが、基金ごとに目的や役割が決められています。
財政調整基金	税収の減少や災害などによる急な支出に備え、年度による収入と支出の差を調整するための基金です。
市債（地方債）	道路や学校などの整備に必要な資金を、市が国や金融機関などから借り入れるものです。借りたお金は、元金と利子を長い期間にわたって返済します。
臨時財政対策債	地方交付税の財源不足を補うため、地方交付税の代わりに市が借り入れる特別な市債です。返済する元金と利子の全額が、将来の地方交付税を計算する際に反映されます。
公債費	市債として借り入れたお金の元金と利子を返済するための費用です。
扶助費	子育て、高齢者福祉、障害福祉、生活支援など、市民の生活を支えるために使う費用です。
形式収支	1年間の収入から支出を差し引いた金額です。翌年度に使う予定のお金も含まれています。
実質収支	形式収支から、翌年度に使う予定のお金を差し引いた金額です。その年度に実質的に残ったお金を表します。
単年度収支	その年度と前年度の実質収支を比べたものです。前年度より収支が改善したか、悪化したかを見ることができます。
実質単年度収支	単年度収支に、財政調整基金の積立てや取崩しなどを反映したものです。その年度の実質的な財政状況を表します。
プライマリー バランス (基礎的財政収支)	市債の借入れや返済の影響を除いて、その年度の行政サービスに必要な支出を、市税などの収入でどの程度賄えているかを見るものです。